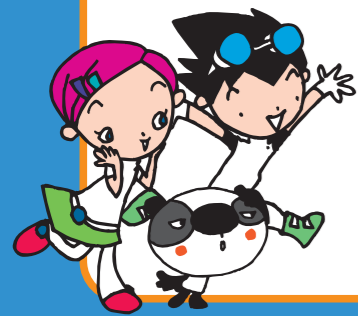


キッズサイエンス



桜の枝で布を桜色に染めてみよう!

桜の枝を集めて、布を染めてみよう!

実験は必ず大人と一緒に行ってください。

熊澤 めぐみ
(香蘭女学校)

準備するもの



実験方法

1 鍋に桜の小枝 30 g と水 500 mL を入れて加熱する

沸騰したら、中火にして 5 分くらい加熱し、その後、湯を捨てる

加熱すると湯の色が黄色～褐色になる

湯を全て捨てる

2 再び、鍋に水 500 mL を入れて中火で加熱する

途中で湯が減ってきたら、小枝が浸るくらいまで水を追加する

1時間くらい加熱すると、湯の色が濃い赤色になる

加熱を止めて小枝を取り出す

3 鍋の湯をろ過する

火傷に注意する

コーヒーフィルター
コーヒードリッパー

ろ液

4 染色液を作り、布を 5 分以上浸す

のろ液をボウルに入れる

おたまを使って、ボウルの中のろ液を数回すくって戻して空気に触れさせると、赤みが増す。これが染色液となる

布を 5 分以上浸す

布

染色液

5 布が染色されたら、割り箸で取り出して流水ですすぎ、乾かす

布を取り出す

流水ですすぎ

乾かす

実験の解説

ここでは、桜染めによって布を桜色に染めました。桜色というと、桜の花びらを使って染めると思いがちですが、桜染めでは枝を使います。枝から桜色の色素が得られるのです。

桜の枝から色素成分を抽出し、さらに空気に触れさせることによって、染色液の赤みが増してきます。特に、1月～4月頃の花の咲く前の生枝を用いると赤色成分が多く、きれいな桜色に染まります。市販の桜チップや乾燥した枝でも同様に染色できますが、橙色成分が多くなってしまい桜色とは異なった色に染まってしまう場合があります。生枝が手に入らない場合は花屋で購入し桜の花を鑑賞後、枝を用いて染色してみてください。

桜にはたくさんの種類があり、時期、種類によっても染まり方は異なります。是非、桜の種類、染色液に浸す時間、染色液の温度などを変えていろいろと実験してみてください。



デザイン・イラスト ビューンワークス